

2023年3月期 第2四半期 決算説明資料

 KURABO

2022年11月17日



I 会社概要

II 2023年3月期 第2四半期（累計）業績の概要

III セグメント別の業績及び今後の見通し

IV 2023年3月期 通期業績予想

V 中期経営計画「Progress '24」の方向性と進捗

I 会社概要

II 2023年3月期 第2四半期（累計）業績の概要

III セグメント別の業績及び今後の見通し

IV 2023年3月期 通期業績予想

V 中期経営計画「Progress '24」の方向性と進捗

- **1888年創業** の、134年の歴史を有する **大手繊維メーカー**
- 化成品、環境メカトロニクス、食品・サービスなど **幅広い分野** に事業領域を展開
- 創業当時より、**環境保全** や **社会貢献** にも積極的に取り組んできた歴史
- 技術研究所を中心に**独自技術**を深耕し、「スマート衣料」や「ロボットビジョンシステム」など、新しい社会を見据えた **イノベーションの実現** にも取り組む
- 急激な環境変化やコロナ禍の影響を受け、ここ数年の業績は伸び悩むも、
成長・高収益領域 の拡大により、**持続的成長** を目指す



- 軟質ウレタン
- 機能樹脂製品
- 住宅用建材
- 不織布など



- エレクトロニクス
- エンジニアリング
- バイオメディカル
- 工作機械



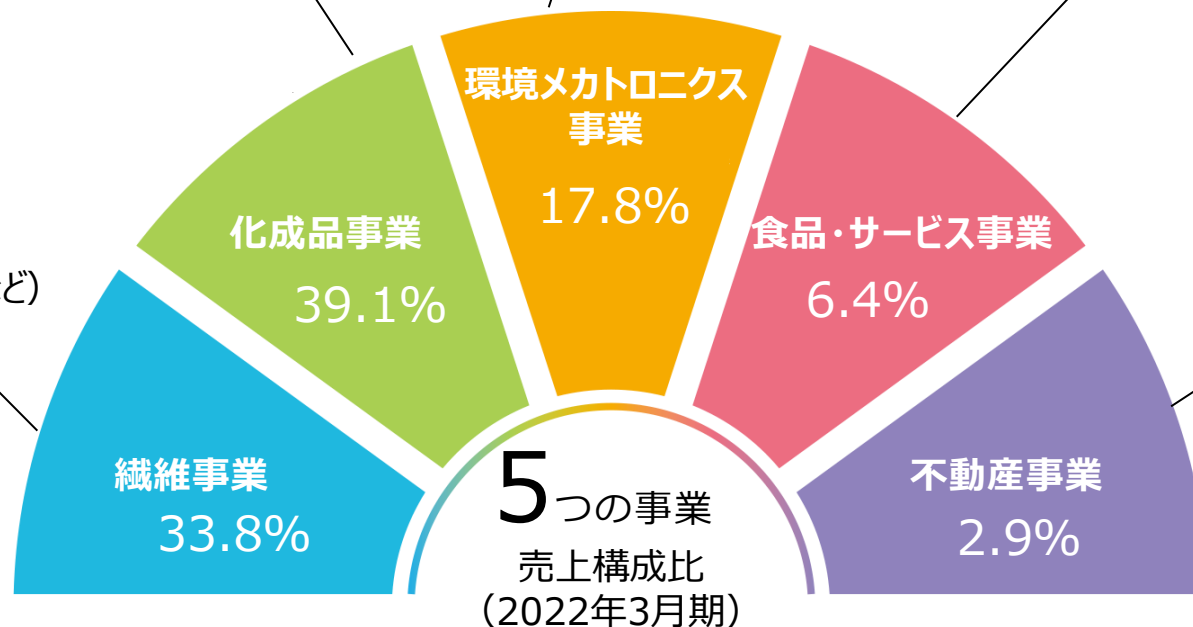
- フリーズドライ食品
- ホテルなど



- 糸
- テキスタイル
- 繊維製品（縫製品など）



- 不動産開発



I 会社概要

II 2023年3月期 第2四半期（累計）業績の概要

III セグメント別の業績及び今後の見通し

IV 2023年3月期 通期業績予想

V 中期経営計画「Progress '24」の方向性と進捗

■ 当初予想を上回る増収増益を実現

- 売上高 72,043百万円 前年同期比+20.0%増 (当初第2四半期予想比 +5.9%増)
- 営業利益 3,405百万円 前年同期比+11.4%増 (当初第2四半期予想比+62.1%増)

■ カジュアル衣料の受注増や海外子会社の業績回復が牽引し、 繊維セグメントは2018年3月期第2四半期以来の営業黒字化

■ 半導体製造装置向け高機能樹脂加工品は、半導体市場の好況を 背景に引き続き好調

■ アップサイクルシステム「L ∞ PLUS」(繊維事業) や、高速 3Dビジョンセンサー「クラセンス」を搭載したロボットビジョンシステム (環境メカトロニクス事業) などの市場浸透開始

第2四半期（累計）業績の概要（全社）

～ 総じて好調に推移し、当初予想を上回る増収増益を実現 ～

(百万円)	22/3期 第2四半期 (累計) 実績		23/3期 第2四半期 (累計) 実績		前年同期比		前回公表比	
		構成比		構成比		増減率		差異率
売上高	60,026		72,043		+12,017	+20.0%	+4,043	+5.9%
売上原価	47,390	78.9%	58,522	81.2%	+11,131	+23.5%		
販管費	9,580	16.0%	10,115	14.1%	+535	+5.6%		
営業利益	3,055	5.1%	3,405	4.7%	+349	+11.4%	+1,305	+62.1%
経常利益	3,661	6.1%	4,647	6.5%	+986	+26.9%	+2,047	+78.7%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	2,381	4.0%	3,264	4.5%	+883	+37.1%	+1,664	+104.0%
設備投資額	1,563		2,096		+533	+34.1%		
減価償却費	2,567		2,520		△47	△1.8%		

需要の回復や好調な半導体市場を追い風として、「繊維事業」「化成品事業」「食品・サービス事業」が伸長し、当初予想を上回る増収に寄与した。利益面では、原・燃料価格の高騰による影響を受けるものの、「繊維事業」の黒字転換をはじめ、増収による収益の押し上げにより大幅な増益を実現した。

第2四半期（累計）業績の概要（セグメント別）

		22/3期 第2四半期 (累計) 実績		23/3期 第2四半期 (累計) 実績		前年同期比	
		(百万円)	利益率		利益率		増減率
繊維事業	売上高	19,259		27,994		+8,734	+45.4%
	営業利益	△409	—	365	1.3%	+774	—
化成品事業	売上高	24,129		28,515		+4,386	+18.2%
	営業利益	1,280	5.3%	1,469	5.2%	+188	+14.7%
環境メカトロニクス事業	売上高	10,853		9,245		△1,607	△14.8%
	営業利益	1,296	11.9%	566	6.1%	△730	△56.3%
食品・サービス事業	売上高	3,856		4,424		+568	+14.7%
	営業利益	8	0.2%	242	5.5%	+233	—
不動産事業	売上高	1,928		1,863		△64	△3.4%
	営業利益	1,406	72.9%	1,276	68.5%	△129	△9.2%

(百万円)	22/3末	22/9末	増減
流動資産	78,397	84,812	+6,415
（現金及び預金）	(14,116)	(11,924)	(△2,191)
固定資産	88,888	87,749	△1,139
（有形・無形固定資産）	(51,064)	(51,554)	(+489)
（投資その他の資産）	(37,823)	(36,194)	(△1,629)
資産合計	167,285	172,561	+5,275
流動負債	42,761	47,943	+5,182
固定負債	27,109	25,924	△1,184
負債合計	69,870	73,868	+3,997
純資産	97,415	98,693	+1,277
（株主資本）	(94,461)	(95,042)	(+581)
負債・純資産合計	167,285	172,561	+5,275
自己資本比率	57.4%	56.3%	△1.1pp
ROA（総資産営業利益率）	4.5%	—	—
ROE（自己資本純利益率）	5.9%	—	—

I 会社概要

II 2023年3月期 第2四半期（累計）業績の概要

III セグメント別の業績及び今後の見通し

IV 2023年3月期 通期業績予想

V 中期経営計画「Progress '24」の方向性と進捗

セグメント別業績（繊維事業）

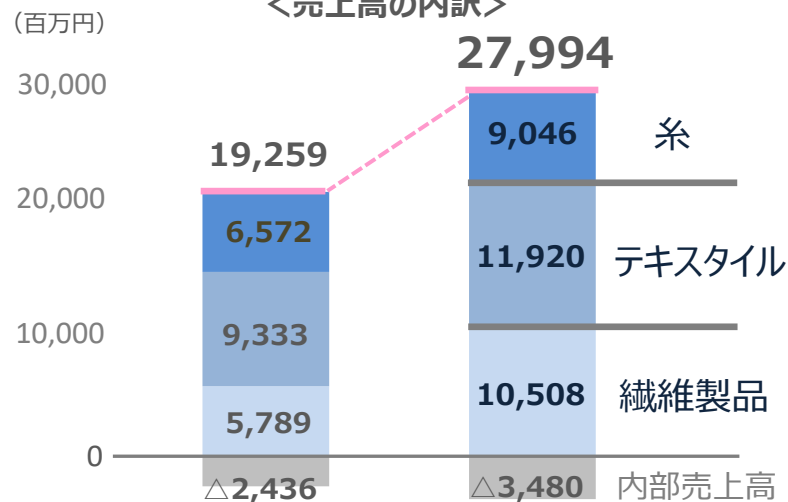
第2四半期業績の概要

売上高は、「糸」「テキスタイル」「繊維製品(縫製品など)」がそれぞれ伸長し、大きく回復した。
利益面でも、原・燃料価格の高騰による影響はあったものの、価格転嫁や高付加価値商品の伸びにより、5期ぶりの営業黒字化を実現した。

財又はサービスの状況

糸	高機能製品や海外子会社が好調
テキスタイル	カジュアル向け素材が海外子会社を中心に回復 ユニフォーム向け素材も順調に推移
繊維製品	カジュアル衣料の受注が増加

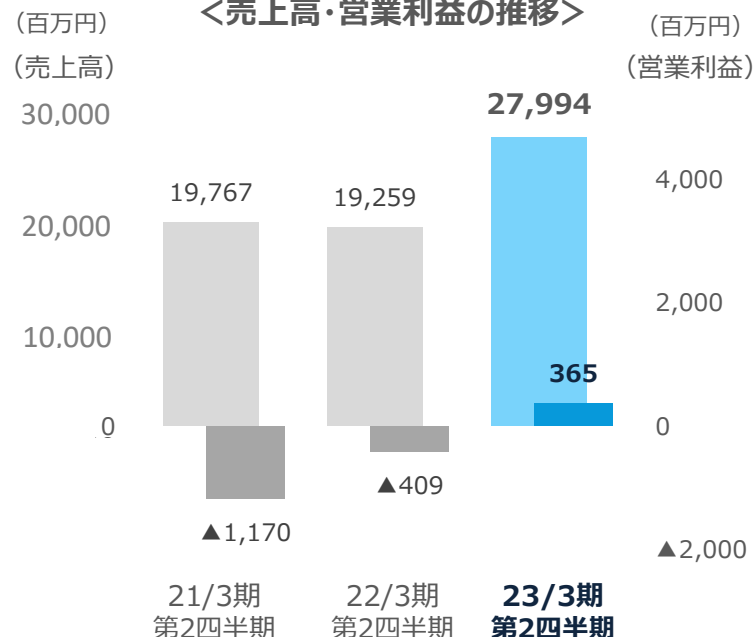
＜売上高の内訳＞



22/3期第2四半期

23/3期第2四半期

＜売上高・営業利益の推移＞



今後の業績見通し（2023/3期 業績予想）

売上高

551億円

営業利益

4億円

今後も、主要製品がそれぞれ順調に推移し、増収となる見込み。
利益面では、引き続き、原・燃料価格高騰の影響により採算が厳しいが、適切な価格転嫁を進め、通期でも営業黒字を確保する見通し。

第2四半期業績の概要

売上高は、「機能樹脂製品」が半導体製造装置向けに好調推移。
「軟質ウレタン」が回復基調。「住宅用建材」は、景観材及び断熱材が順調。
利益面では、高収益の「機能樹脂製品」による貢献に加えて、「軟質ウレタン」
や「住宅用建材」の損益改善により増益。

財又はサービスの状況

軟質ウレタン

上海ロックダウンによる自動車メーカーの減産影響は残るが、回復基調

機能樹脂製品

半導体製造装置向けが引き続き好調

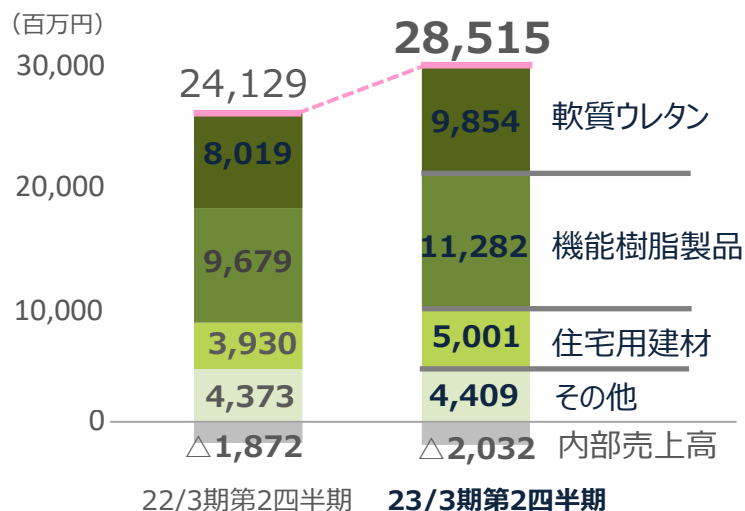
住宅用建材

景観材及び断熱材が順調

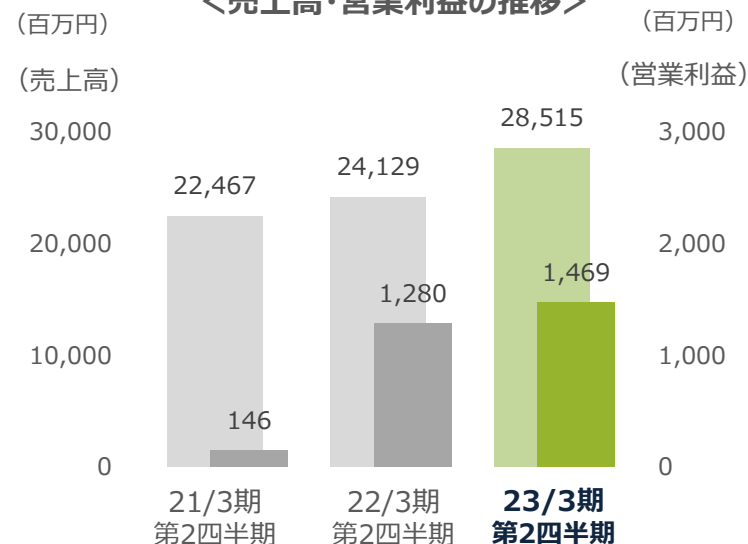
その他

不織布は衛生材料向けが低調

<売上高の内訳>



<売上高・営業利益の推移>



今後の業績見通し（2023/3期 業績予想）

売上高

600億円

営業利益

33億円

- ☐ 自動車向けは、先行き不透明感が強いものの、部品不足の影響は少なくなる見込み。
- ☐ 半導体製造装置向けは、継続した伸長が見込める。
- ☐ 住宅用建材は回復基調を継続する見通し。

第2四半期業績の概要

受注環境は概ね好調であり、「エレクトロニクス」で半導体洗浄装置の大型案件などがあったものの、サプライチェーンの混乱や部品調達難の影響を受け減収減益。

財又はサービスの状況

エレクトロニクス

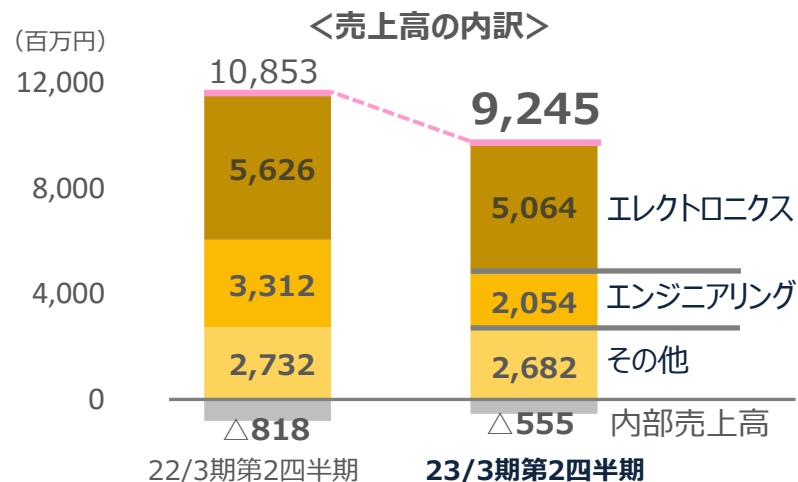
半導体製造装置向け液体成分濃度計は堅調に推移し、半導体洗浄装置の大型案件があった一方、部品調達難の影響により基板検査装置などが低迷

エンジニアリング

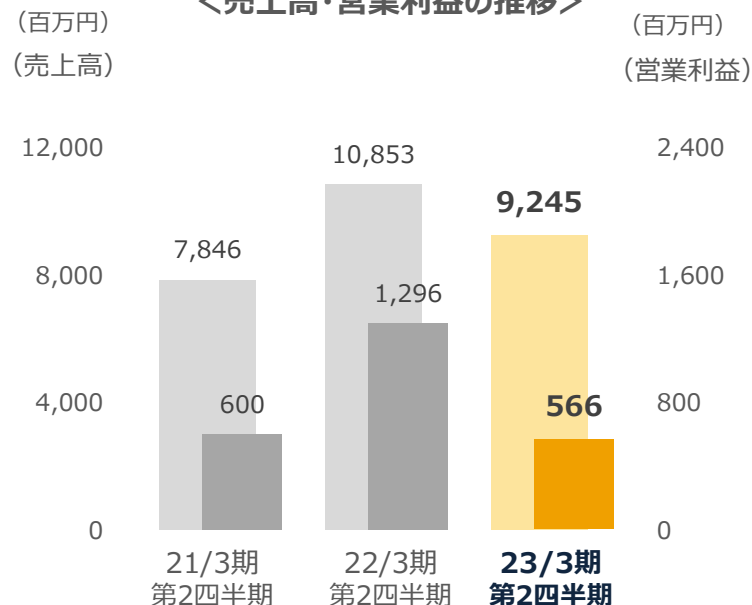
バイオマス関連設備及びプラント関係の大型案件が減少

その他

バイオメディカルは、攪拌脱泡装置の海外向け販売が堅調に推移。工作機械は、中国向けが堅調に推移したものの、国内、北米向けが低迷



＜売上高・営業利益の推移＞



今後の業績見通し（2023/3期 業績予想）

売上高

250億円

営業利益

21億円

- サプライチェーンの混乱など、先行きは不透明な状況が続くと予想されるものの、エレクトロニクスは、半導体業界向けが堅調に推移し、期末に向けて回復基調をたどる見通し。
- エンジニアリングの大型プラント案件の受注状況は、引き続き厳しい見込み。

第2四半期業績の概要

売上高は、「食品」及び「サービス」のホテル関連が伸長した。

利益面でも、「ホテル関連」のコロナ禍からの回復（稼働率及び客室単価の改善）が増益に大きく寄与した。

財又はサービスの状況

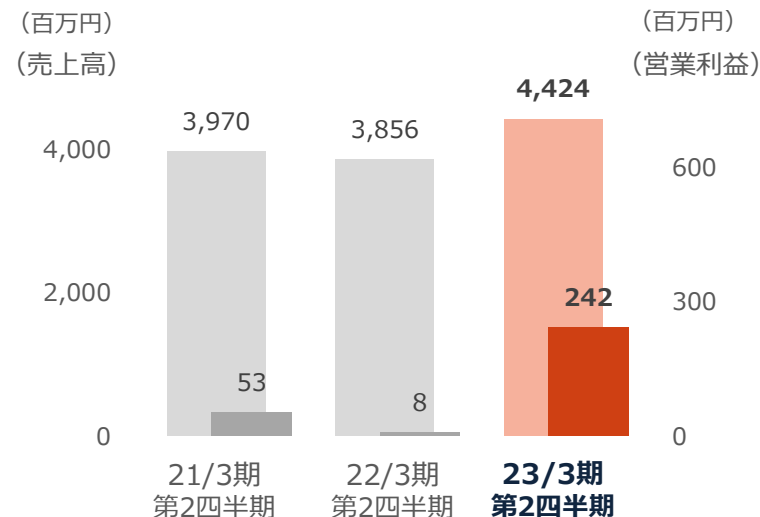
食品

内食需要の定着により、成型スープの販売が好調

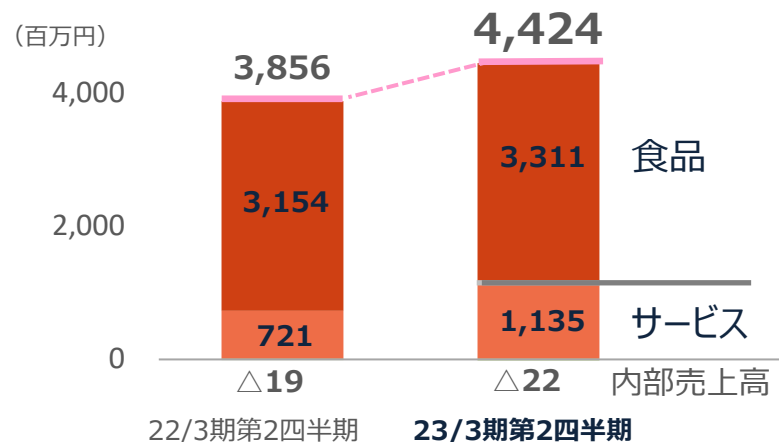
サービス

ホテル関連は行動制限緩和や観光事業支援策の効果により増収

＜売上高・営業利益の推移＞



＜売上高の内訳＞



今後の業績見通し（2023/3期 業績予想）

売上高

92億円

営業利益

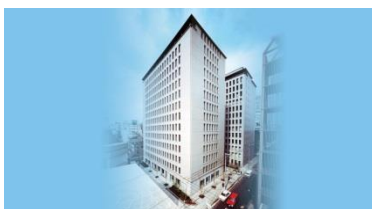
4億円

- 「食品」は、原・燃料価格高騰による影響が懸念される中、植物性タンパク素材など差別化商品の開発に注力。
- 「ホテル関連」は、10月から実施された全国旅行支援の効果で宿泊客の増加が期待される。引き続きウィズコロナにおける安全・安心なサービスの提供に努める。
なお、2023年4月に倉敷アイビースクエアでG7倉敷労働雇用大臣会合が開催される予定。

第2四半期業績の概要

一部賃貸条件の変更などにより減収減益となるものの想定の範囲内。

事業例（一部）



資産の有効活用を目的に
テナントビルとして運用している
「クラブハウアネックスビル」

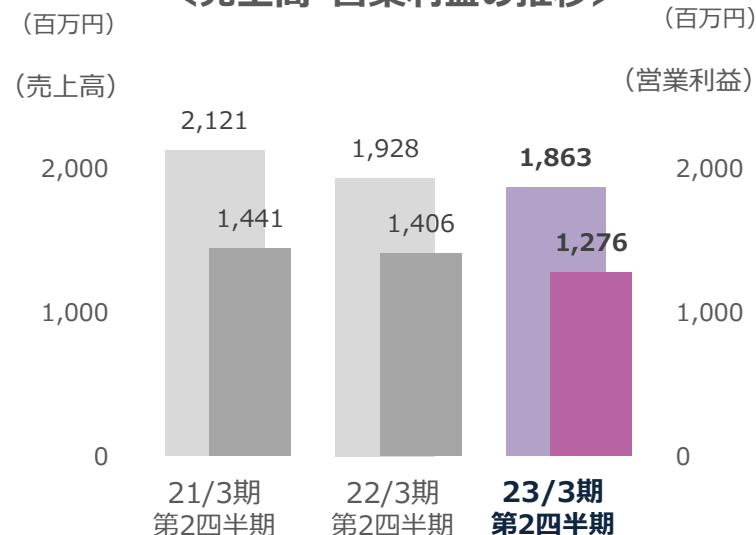


大型ショッピングモールを中心とする
土地の再開発事業に関わり
地域の活性化に貢献



エネルギー問題の解決に大きな期待が
かかるメガソーラー施設へ用地を提供

＜売上高・営業利益の推移＞



今後の業績見通し（2023/3期 業績予想）

売上高

37億円

営業利益

23億円

一部賃貸条件の変更などによる影響に加え、大型物件の修繕費増加や経費増加などにより、収益が低下。

トピックス①：「熊本事業所」の大幅増床計画

KURABO

半導体製造装置向け高機能樹脂加工品の生産拠点「熊本事業所」に新棟建設を計画

2024年4月新棟稼働予定 (投資額：約20億円)

(新棟概要) 敷地面積：5,467㎡ (現 熊本事業所西側隣接地)
延床面積：6,000㎡ (予定)
着工時期：2023年3月頃 (予定)



＜現 熊本事業所 外観＞

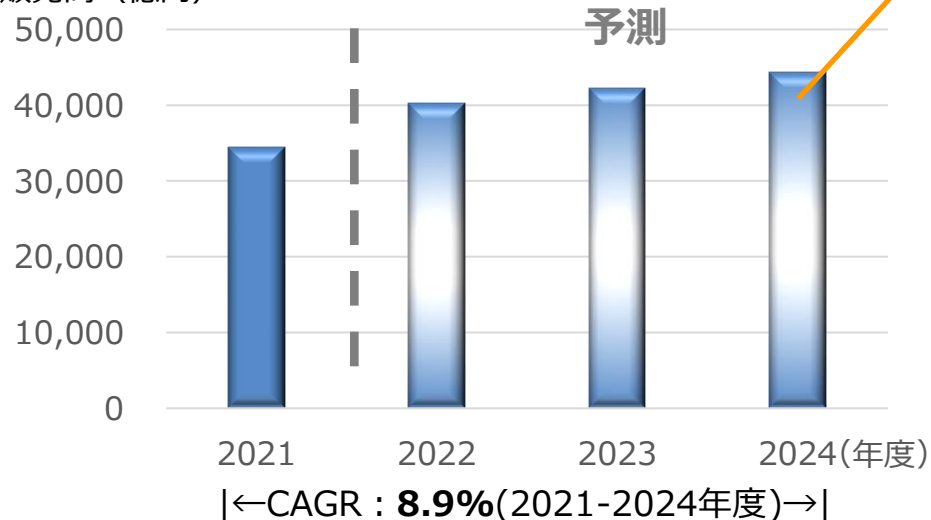


特長：耐薬品性に優れクリーン性が高い

日本製半導体製造装置市場(推移) ※

*「日本製半導体製造装置販売高」とは、日系企業（海外拠点を含む）の国内及び海外への販売高です。

販売高（億円）



(※出所：SEAJ「2022年7月発表 半導体・FPD製造装置
需要予測(2022年度～2024年度)」2022年7月7日)

当社の施策

今後も拡大する半導体市場向けに生産・開発能力強化

- 高機能樹脂加工品の生産・開発能力
2022年度→次期中計に **2** 倍以上 (目標)

新規加工製品の商品開発

- 人員・設備等を増強し開発体制の強化

拡大する半導体装置向け需要の取り込み

高速3Dビジョンセンサー「クラセンス」が2022年ロボット大賞「日本機械工業連合会会長賞」を受賞

受賞内容

ロボット用高速3Dビジョンセンサー「クラセンス（KURASENSE）」が持つ、ケーブルや電線など線状物の認識に特化した高いセンシング技術と、ロボットシステム関連の 新技術の普及に貢献している点が評価され受賞



高速3Dビジョンセンサー
クラセンス (KURASENSE)

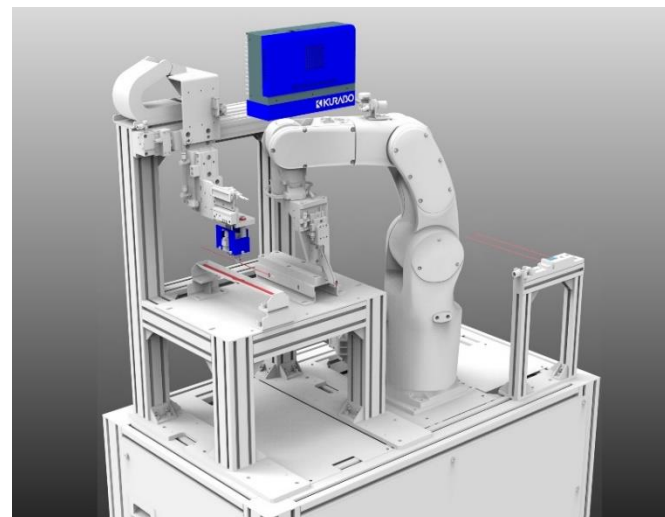
■クラセンスの技術の特長



今後の展開

「クラセンス」を搭載した『ワイヤーハーネス製造ロボットパッケージ』の受注開始

自動化が困難で手作業が多いワイヤーハーネス製造工程において、「クラセンス」とロボット、および専用ロボットハンド「Kurabotte（クラボtte）」などの必要機器をセットにし、一連の作業を自動化するシステムパッケージの受注開始



I 会社概要

II 2023年3月期 第2四半期（累計）業績の概要

III セグメント別の業績及び今後の見通し

IV 2023年3月期 通期業績予想

V 中期経営計画「Progress '24」の方向性と進捗

2023年3月期 通期業績予想

～ 第2四半期までの実績を踏まえて、通期業績予想を上方修正。前期比で増収及び最終増益を見込む～

(百万円)	22/3期 実績		23/3期 業績予想				前期比	
			前回公表		修正後			
		構成比		構成比		構成比		増減率
売上高	132,215		145,000		153,000		+ 20,785	+15.7%
営業利益	7,528	5.7%	7,000	4.8%	7,400	4.8%	△128	△1.7%
経常利益	8,783	6.6%	7,600	5.2%	8,700	5.6%	△83	△1.0%
親会社株主に 帰属する当期純利益	5,602	4.2%	5,300	3.7%	6,000	3.9%	+398	+7.1%
設備投資額	3,608		6,300		6,600		+ 2,992	+82.9%
減価償却費	5,191		5,500		5,200		+9	+0.2%

2023年3月期 通期業績予想：セグメント別

		22/3期 実績		23/3期 業績予想				前期比	
				前回公表		修正後			
		(百万円)	利益率		利益率		利益率		増減率
繊維事業	売上高	44,669		51,000		55,100		+10,431	+23.4%
	営業利益	△177	－	0	－	400	0.7%	+577	－
化成品事業	売上高	51,695		57,000		60,000		+8,305	+16.1%
	営業利益	2,978	5.8%	3,300	5.8%	3,300	5.5%	+322	+10.8%
環境メカトロニクス事業	売上高	23,593		24,000		25,000		+1,407	+6.0%
	営業利益	2,776	11.8%	2,000	8.3%	2,100	8.4%	△676	△24.4%
食品・サービス事業	売上高	8,461		9,300		9,200		+739	+8.7%
	営業利益	271	3.2%	500	5.4%	400	4.3%	+129	+47.6%
不動産事業	売上高	3,795		3,700		3,700		△95	△2.5%
	営業利益	2,746	72.4%	2,300	62.2%	2,300	62.2%	△446	△16.2%

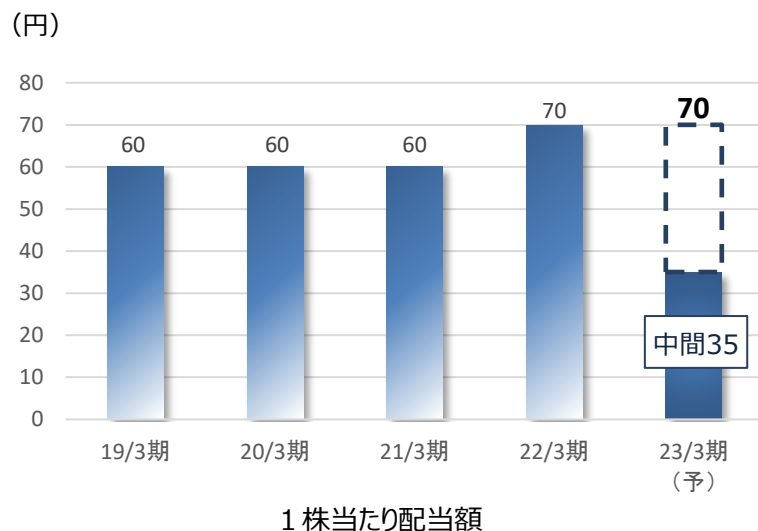
株主還元方針

安定的かつ継続的な利益還元を基本とするが、その他株主還元策として自己株式の取得も併せて検討し、本中計期間における総還元性向は**50%以上**を目標とする。

実績

2023年3月期は、中間配当で1株当たり **35円** を実施、年間で1株当たり **70円** を予定

配当推移



自己株式の取得状況

2022年5月12日 取締役会決議

(決議内容)

自己株式の取得：上限 110万株 (20億円)

自己株式の消却：75万株

期間：2022/5/13～2022/12/31

2022年9月末までの実績

自己株式の取得：63万株 (12億円)

自己株式の消却：75万株

I 会社概要

II 2023年3月期 第2四半期（累計）業績の概要

III セグメント別の業績及び今後の見通し

IV 2023年3月期 通期業績予想

V 中期経営計画「Progress '24」の方向性と進捗

長期ビジョン 2030

目指すべき姿：イノベーションと高収益を生み出す強い企業グループ

「Creation '21」
イノベーションによる収益
拡大と企業価値の向上

「Progress '24」
高収益事業の拡大と持続可能な
成長に向けた基盤事業の強化

【長期ビジョン2030】
イノベーションと高収益を
生み出す事業体制への変革

2019.4 前中期経営計画

2022.4

中期経営計画

2025.3

2031.3

成長・注力事業

成長市場における注力
事業への経営資源の集中

基盤事業

収益力の強化

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS
より良い未来社会の実現

高収益

持続的
成長

ESG経営の推進

「長期ビジョン2030」の実現



【基本方針】

高収益事業の拡大と持続可能な成長に向けた基盤事業の強化

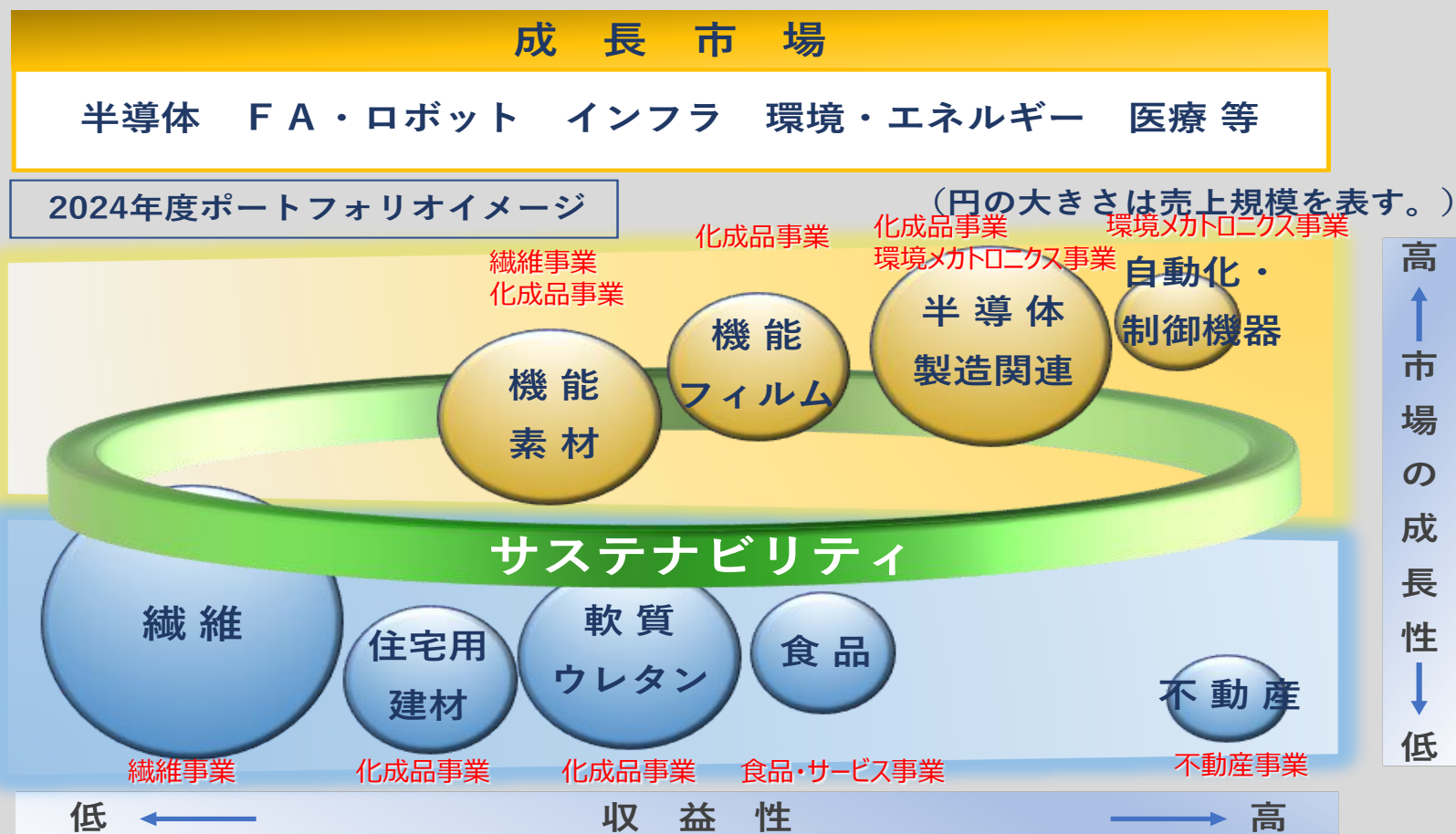
【重点施策】

- ① 成長・注力事業の業容拡大と基盤事業の収益力強化
- ② R & D活動の強化による新規事業創出と早期収益化
- ③ SDGs達成への貢献
- ④ 多様な人材の活躍推進

基本方針

成長市場における当社グループの注力事業に**経営資源を集中**し、業容拡大を図るとともに、**基盤事業の収益力強化**に注力する

注力事業
基盤事業



【全社目標】

	22/3期 実績
売上高	1,322
営業利益	75
経常利益	87
親会社株主に帰属する当期純利益	56
売上高営業利益率	5.7%
ROE（自己資本純利益率）	5.9%
ROA（総資産営業利益率）	4.5%
ROIC（投下資本利益率）	4.6%



25/3期 目標	増減	CAGR
1,600	+277	6.6%
96	+20	8.4%
102	+14	5.1%
72	+15	8.7%
6.0%	+0.3 pp	
7.0%	+1.1 pp	
5.3%	+0.8 pp	
5.6%	+1.0 pp	

※CAGR=Compound annual growth rateの略。
年平均成長率のこと（以下、同様）

【事業別目標】

		22/3期 実績
繊維事業	売上高	446
	営業利益	△1
化成品事業	売上高	516
	営業利益	29
環境メカトロニクス事業	売上高	235
	営業利益	27
食品・サービス事業	売上高	84
	営業利益	2
不動産事業	売上高	37
	営業利益	27



25/3期 目標	増減	CAGR
540	+93	6.5%
8	+9	黒字化
630	+113	6.8%
39	+9	9.4%
290	+54	7.1%
30	+2	2.6%
103	+18	6.8%
7	+4	37.2%
37	△0	—
23	△4	—

重点施策 ①

独自技術を活用した高機能素材やサステナブル素材の販売拡大

- 原料改質技術を活用した高機能コットン素材「NaTech（ネイテック）」は新たな機能を開発、販売が伸長



- アップサイクルシステム「L ∞ PLUS(ループラス)」は、様々な分野の企業や国内の主要繊維産地と連携強化、販売が伸長



重点施策 ②

サプライチェーン全体を意識したQR対応と生産性向上

- 効率的な適地生産・適地販売を念頭に置いて、グローバル生産拠点を統括したQR体制づくりが順調に進捗

重点施策 ① 半導体やエネルギー関連市場における注力事業への経営資源集中

- 生産・開発体制増強に向け、熊本事業所の新棟建設用地を取得
- エネルギー関連市場向け機能フィルム製造ラインの増設に向け推進



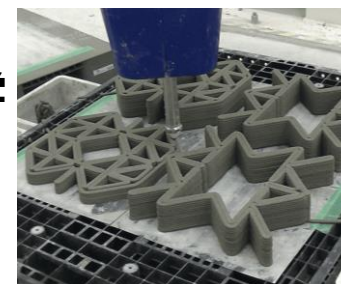
＜現 熊本事業所 外観＞



＜エラストマーフィルム＞

重点施策 ② 軟質ウレタンや住宅用建材など基盤事業の販売・生産体制の効率化と新規ビジネスの拡大

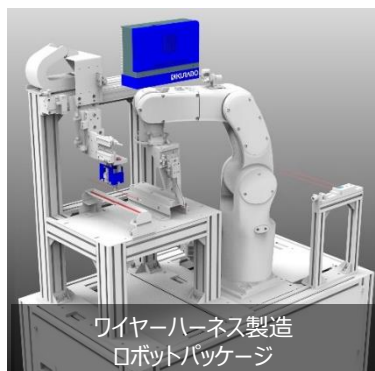
- 軟質ウレタンは車両分野で販売が回復、住宅用建材も回復傾向
- 原・燃料価格高騰分の価格転嫁の推進
- スマートファクトリー化推進
- 建設用3Dプリンターは竹中工務店や東京大学と共同研究を推進



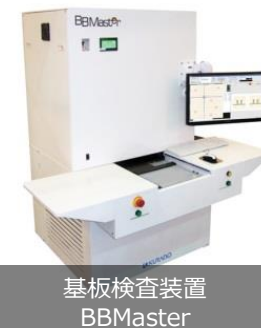
重点施策 ①

商品力強化による競争優位性の獲得と海外市場への拡販

- 新技術であるロボットビジョンシステムなどの商品開発の強化



- 半導体関連の検査・計測ビジネスの拡充



重点施策 ②

社会課題の解決に貢献する商品群の市場投入

- 家畜排せつ物の クリーンな堆肥への繰り返し再生可能な「FUNTO」の販売拡大を引き続き推進



- 食品廃棄物由来の排水処理設備の販売拡大を引き続き推進



クラボウグループの長期環境目標

クラボウグループは、政府目標である2030年度にCO₂排出量を46%削減（2013年度比）、2050年度にカーボンニュートラルの達成に向けて、CO₂排出量削減のための推進体制を強化し、具体的な施策を進めてまいります。



取組み

脱炭素社会・資源循環型社会に向けた取組み

●カーボンニュートラルロードマップに基づくCO₂排出量の削減

- ✓ 太陽光パネルの設置（クラボウ三重工場、タイクラボウ） 合計 1,800 t △CO₂削減
- ✓ ボイラーのガス化、冷凍機更新（クラボウ裾野工場・鴨方工場、日本ジフィー食品） 合計1,100 t △CO₂削減
- ✓ 再生可能エネルギー由来の電力導入（クラボウ本社ビル） 合計400 t △CO₂削減

●資源の有効活用と再資源化の推進

- ✓ ゼロエミッションの推進（再資源化率） 2022年度目標 96%（前年度実績 94.7%）

ダイバーシティ&インクルージョンやフレックスタイム・テレワーク制度などの

柔軟な働き方の推進により、多様な人材が個々の能力を最大限に発揮し、

自律的に業務を進めることのできる企業風土づくりを推進してきた。

今後はさらに、企業価値を持続的に向上させる**事業変革力を持った社員を育成**するとともに、

社員が組織に主体的に貢献する**「エンゲージメントの高い組織」**の構築を目指す。

【主な取組み】

活力ある組織風土の醸成	・社員の力を引き出すエンパワメントの推進 ・ダイバーシティ&インクルージョンの推進 ・アンコンシャス・バイアスの理解浸透
柔軟な働き方の推進	・フレックスタイム、テレワーク制度の定着 ・有給休暇の取得促進、時間単位有休制度の活用 ・健康経営の推進
多様な人材の確保と育成	・採用力の強化 ・事業変革力強化のためのIoT推進、DX技術活用教育



KURABO

TAISHO BOSEKI

KURABO INTERNATIONAL

倉敷繊維加工株式会社

TOMEI

kurachemi Sheedom

KURAKI 技術のチカラで世界を作る

ECHO GIKEN

クラブプラントシステム株式会社

KTS 株式会社クラブテクノシステム

YAMABUN

株式会社セイキ

Freezedry For Future.
日本ジフィー食品株式会社

クラブグループ
クラブ
ドライベンダース

KURASHIKI IVY SQUARE

恒栄商事株式会社

KBT TKC TTDF KMT KVC 倉紡貿易(上海) KCB GKC KCGU

将来情報に関するご注意

本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、将来の業績を確約するものではありません。実際の業績等は、新型コロナウイルス感染症の収束時期や、内外主要市場の経済環境、為替相場の変動など様々な要因により、大きく変動する可能性があります。

また、本資料に掲載されている情報は、情報提供を目的としたものであり、いかなる有価証券、金融商品又は取引についての募集、投資の勧誘や売買の推奨を 目的としたものではありません。本資料への当社に関する情報の掲載に当たっては万全を期しておりますが、その内容の正確性、完全性、公正性及び確実性を保証するものではありません。従いまして、本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではありません。

Appendix

SDGsへの取組み

【基本方針】

持続的な社会の実現に貢献するためには、企業自らが持続的な企業価値の向上を目指さなければならないと考えており、付加価値の高い技術や商品・サービスを創出し、高収益事業を育成・拡大するとともに、当社グループの経営理念である

「私たちクラボウグループは、新しい価値の創造を通じてより良い未来社会づくりに貢献します。」のもと、以下の実践に努める。

- 
- ① 事業を通じた社会課題解決への貢献
 - ② 地球環境の保全を意識した事業活動の推進
 - ③ 人権の尊重および、働きやすさとやりがいのある職場環境の整備
 - ④ 信頼される企業づくりの推進

事業と関わりの深いSDGs

関連するSDGs	関連する事業活動
繊維事業 	● 改質技術による機能性天然繊維の開発・提供 ● 服の裁断くず再資源化による循環型ビジネス構築 ● 再生ポリエステルや生分解性繊維の活用 ● 熱中症対策、感染症対策のサポート
化成品事業 	● 住宅のエネルギー効率改善 ● 再生樹脂の利用促進 ● 間伐材の利用促進 ● 廃材のリサイクル活用
環境メカトロニクス事業 	● 道路、鉄道等の交通インフラの長期保全 ● 再生可能エネルギーの利用促進 ● 間伐材等廃棄物の利用促進 ● 核酸分離装置によるゲノム医療研究支援 ● 和牛の血統管理による生産効率向上 ● 家畜排せつ物のクリーンな堆肥への繰り返し再生
食品・サービス事業 	● 安全で栄養価の高い食品の提供 ● 災害備蓄対策
全社共通・その他 	● ダイバーシティ&インクルージョンの推進 ● 柔軟な働き方の実現 ● 社会貢献できる技術基盤の構築 ● 不動産賃貸を通じた住みやすい街づくり ● ゼロエミッションの推進

最も重視するテーマ
(マテリアリティの特定)



+

多様な人材の活躍推進等

繊維事業

- 改質技術による機能性天然繊維の開発・提供
- 服の裁断くず再資源化による循環型ビジネス構築
- 再生ポリエステルや生分解性繊維の活用
- 熱中症対策、感染症対策のサポート

■ 取組み事例

NaTech

天然繊維に機能性を持たせることができる
独自技術素材。暖かさ、消臭、吸放湿などの
機能を付与でき、洗濯耐久性に優れます。



Looplus
ループラス

服の裁断くずや不要な製品から再資源化する
独自のアップサイクル技術を活用した循環型
ビジネスの構築を目指しています。



AIR FLAKE

SUSTAINABLE INSULATION

100%リサイクル原料で実現した、天然羽毛
レベルの軽さ、保温性、やわらかさ、乾きやすさ
が特長の中わた素材です。



化成品事業

- 住宅のエネルギー効率改善
- 再生樹脂の利用促進
- 間伐材の利用促進
- 廃材のリサイクル活用

■ 取組み事例

クラティスエコ KURATTICE ECO

アルミなどの芯材に木粉入り樹脂をコーティングした合成木材。天然木調などの意匠性と金属の強度を併せ持つ建材・産業資材です。



12 つくる責任
つかう責任



15 陸の豊かさも
守ろう



クランゼロ®シリーズ

ノンフロンで断熱性に優れた新しい発泡剤を使用した高性能硬質ウレタンフォーム断熱材で、優れた気密性と断熱性で快適な住環境を実現します。



11 住み続けられる
まちづくりを



13 気候変動に
具体的な対策を



クランシール®シリーズ

ゴムのような弾性とプラスチックの優れた加工性を併せもつエラストマー素材のフィルムです。太陽電池や建材ガラスの中間膜などの用途で、環境や安全・快適に貢献します。



7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに



11 住み続けられる
まちづくりを



環境 メカトロクス 事業

- 道路、鉄道等の交通インフラの長期保全
- 再生可能エネルギーの利用促進
- 間伐材等廃棄物の利用促進
- 核酸分離装置によるゲノム医療研究支援
- 和牛の血統管理による生産効率向上
- 家畜排せつ物のクリーンな堆肥への繰り返し再生

■ 取組み事例

路面検査コンパクトユニット PG-4

3Dカメラ、距離計、GPSを搭載し、時速100kmで走行しながら短時間で路面の損傷を計測することでインフラ劣化診断の効率化が図れます。



強力な殺菌・乾燥能力を有し、家畜の糞尿を含む使用済み敷料を、サラサラでクリーンな堆肥に繰り返し再生します。



バイオマス発電事業

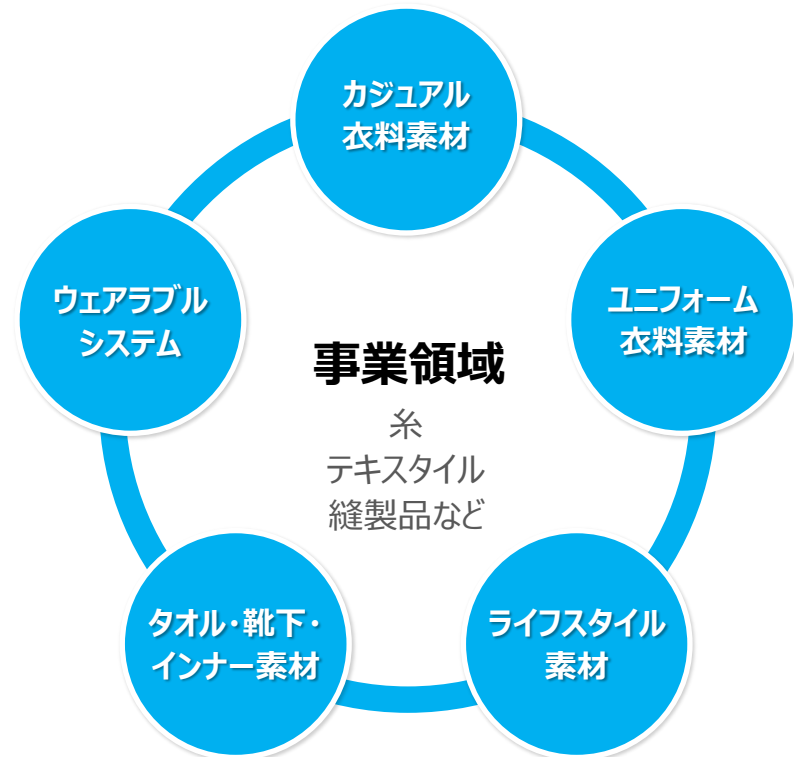
間伐材などを燃料としたバイオマス発電事業を展開しており、一般家庭約11,000世帯分の年間使用電力量相当の発電を行っています。



事業紹介

繊維事業

紡績、織布、染色・加工、縫製における独自技術を活かし、糸では、原料改質技術を活用した高機能製品「NaTech（ネイテック）」の拡販等に注力。テキスタイルおよび縫製品などの繊維製品では、ユニフォーム分野においては、働く人へ安全と快適を提供するビジネスへの転換を進め、カジュアル分野においては、アップサイクルシステム「L∞PLUS（ループラス）」やサステナブル原料を活用した商品を展開しています。これらの取組みにより、サステナブル社会の実現に貢献していきます。



主な製品・技術

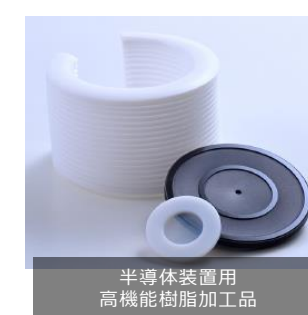
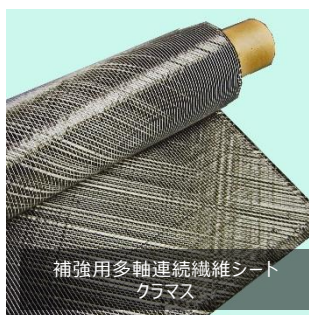


化成品事業

独自の原料配合と成形技術により、自動車内装材や住宅用建材・断熱材分野で差別化を強化し、半導体製造関連では高度な加工技術により高機能樹脂加工品を拡大。
また、機能フィルムを自動車分野やエネルギー市場で展開するなど、独自技術により様々な市場において多彩な製品を提供しています。



主な製品・技術



環境 メカトロニクス 事業

色のセンシング技術を軸に検査・計測機器でモノづくりの品質向上に貢献するエレクトロニクス事業。排水・排ガス処理技術などの環境プラント技術を基盤にバイオマス発電分野にも進出するエンジニアリング事業。創薬、化粧品開発、前臨床研究の領域で研究試薬や機器、サービスを提供するバイオメディカル事業。モノづくりのための機械をつくる工作機械事業。モノづくり、研究活動、エネルギー活用分野で、暮らしの安全・安心・快適を支えています。

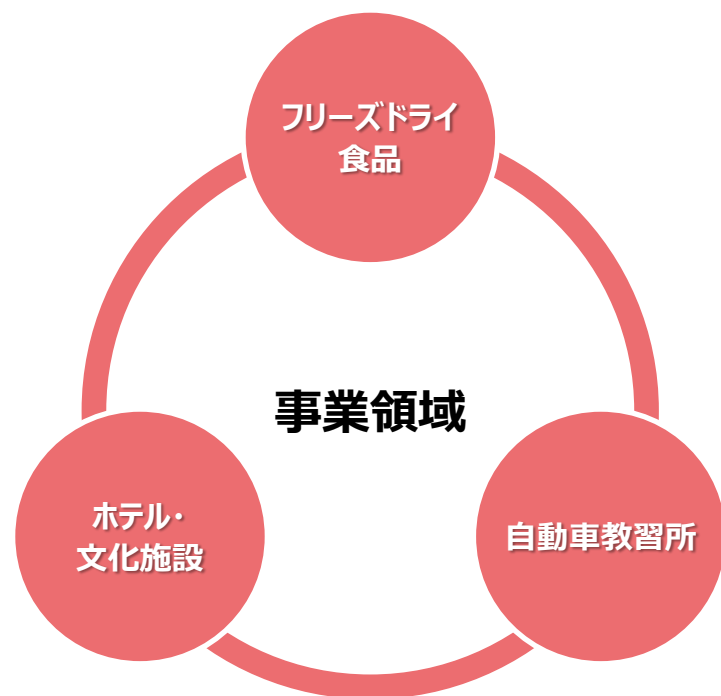


主な製品・技術



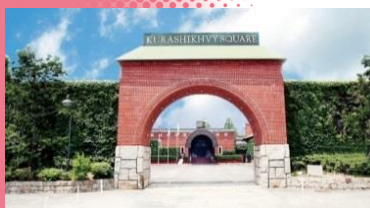
食品・サービス事業

食品分野では「日本ジフィー食品」が成型スープなどのフリーズドライ食品を提供。
サービス分野ではクラボウ設立当時の工場を活用した複合文化施設である「倉敷アイビースクエア」においてホテルを運営。また、「クラボウドライビングスクール」は地域の“安全”に貢献しています。



日本ジフィー食品

1960年設立の「日本ジフィー食品」はクラボウグループの食品事業を担っています。



倉敷アイビースクエア

赤煉瓦と蔦の外観が特徴的な「倉敷アイビースクエア」は倉敷美観地区の観光拠点でもあります。

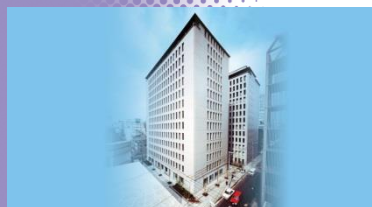
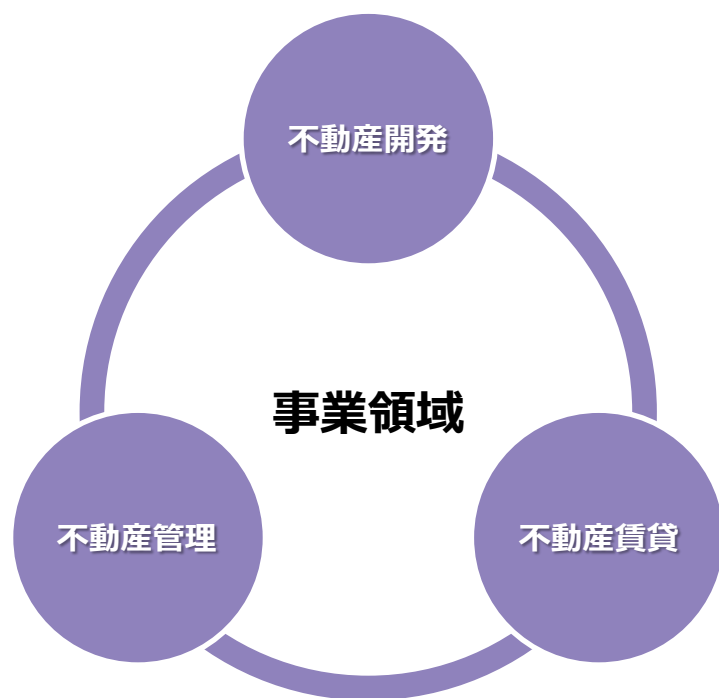


クラボウドライビングスクール

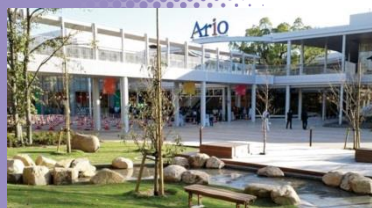
運転の教習を通じて地域の“安全”に貢献している「クラボウドライビングスクール」。

不動産事業

クラボウでは全国に多数の工場および関連施設を有しており、その遊休地を有効活用し、資産の健全な運用や、地域への貢献を視野に入れた活動を推進しているのが不動産事業です。



資産の有効活用を目的にテナントビルとして運用している「クラボウアネックスビル」。



大型ショッピングモールを中心とする土地の再開発事業に関わり、地域の活性化に貢献。



エネルギー問題の解決に大きな期待がかかるメガソーラー施設へ用地を提供。

技術研究所では、自由な発想によるイノベーションと知財戦略との連携により、クラボウグループの未来を支える研究開発に取り組んでいます。



研究開発テーマ

FA・ロボット
(環境メカトロニクス事業)

半導体製造関連
(化成品事業、環境メカトロニクス事業)

遺伝子抽出・解析
(環境メカトロニクス事業)

機能素材
(繊維事業、化成品事業)

分野を越えた交流から差別化技術を生み出す独自体制



クラボウ先進技術センター

2016年に竣工した「クラボウ先進技術センター」は技術研究の中心拠点として、先端の実験装置・評価設備を導入し、挑戦的な技術や商品の開発に取り組んでいます。